

2021年度 授業評価 結果のまとめ (公開版)

1. 緒言
2. 設問（量的項目）への回答の集計結果
3. 授業カテゴリー別の評価点の分布
4. 自由記載の計量テキスト分析
5. まとめ

<参考> 授業評価アンケート 設問（前期・後期共通）

1. 緒言

今年度は、2020年度に引き続き、コロナウイルス感染予防に向けた対策をした上で、なるべく多くの対面授業が実施できるような工夫がなされた。しかしながら、受講者数が極めて多く、教室の収容定員の関係上、対面授業ではいわゆる3密状態になることが避けられないと判断された授業は、当初からオンデマンド受講での実施となった。近隣地域の感染拡大状況が悪化した際には、対面で実施されていた講義や演習も、急遽オンデマンドへ切り替えるなどの措置がとられ、結果として2つの形態を組み合わせた形での実施を余儀なくされた例があった。また、学外での実習などは中止、あるいは延期となるケースがみられた。

これらの状況から、授業評価アンケートのあり方もコロナ禍に対応したものであるべきと考え、2019年度までの同調査で採用していた量的項目（定性的な内容を数値化して評価しようとするもの）については、学修者（学生）の立場から設問を精査し、状況にかかわらず適切に対応すべきことがらを中心に再設計した。

方針として、定番となっていた「シラバス通りの授業進行」や「対面受講を前提とした諸配慮（例：授業を進める上で、教室の広さや空調、教室移動時間、実習期間などに応じた配慮を行っていたか、学生が質問や意見を出しやすいように工夫を行い、質問に適切に応じていたか、など）」の程度を問う設問は削除対象とした。また、教員の「授業への熱意や意欲」の程度など、回答に授業の実施方式によるバイアスがかかると予想される設問も削除対象とした。

その結果、今回は、①授業計画・進め方についての十分な説明、②学修到達目標と評価方法についての十分な説明、③授業テーマや特徴、受講時の留意点等についての十分な説明、④話し方、教材や資料の提示、ディスカッションや実験・実技指導などの適切性、⑤学習に集中できる授業環境への配慮、⑥授業構成についての工夫、の6項目で実施した。

本学で授業評価アンケートに用いているUNIPAシステムでは、回答入力期間の終了直後から、担当教員個人のポータルサイトにて受講学生の回答を自由記載を含めて閲覧可能となる。従って、教員は、それらを参照することで即時（通年授業であれば、前期の評価結果を基に後期から）に自らの授業改善に活かすことが可能であり、授業評価本来の役割はシステム上で果たしていると考えられる。そこで、本報告書では、当該年度に開講された授業の状況を全学的視点で概観し、今後の改善の方向性等を見出すことを目指す。

具体的には、開講科目を、一般講義、演習・ゼミ（卒業論文を含む）、実習・実験、リエゾンゼミⅠ、語学系、スポーツ系、禅、の7つのカテゴリーに分け、評価結果を授業特性に基づいて分析した結果を報告する。そのため、前期開講・後期開講の区別は行っておらず、また通年開講の授業においては、前期と後期の内容が異なる（セメスター制ではない）ことから、延べ2回の授業として扱った。

また、自由記載に関しては、すべての授業について「よかったと感じられた点」と「よかったとは感じられなかった点」に分けて計量テキスト分析を実施した。各回答の文章から評価に関係するキーワードを抽出し、その出現頻度と文脈の解析から、高評価あるいは低評価となっている観点とその内容を集約するとともに、回答学生の学年と評価内容との相関の有無を検討した。実施期間、各期の対象者数と回答率は次の通りであった。

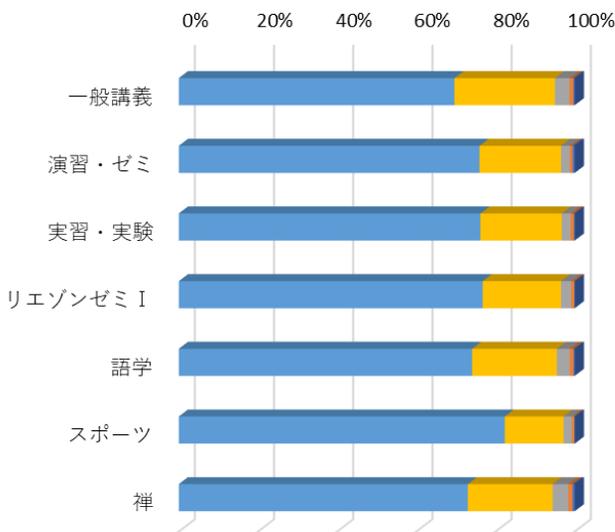
対象：	2021年度在籍の全学生
実施期間：	前期 2021年7月12日～9月11日 後期 2021年12月13日～2022年2月19日（特定学外実習者10月18日～2月26日）
回答率：	前期 56.4%（回答者のべ38,021名/対象者のべ67,443名） 後期 【共通】47.0%（回答者のべ28,006名/対象者のべ59,536名） 【特定学外実習者用】52.6%（回答者のべ833名/対象者のべ1,583名）

なお、大学院は各科目の受講者数が少なく、授業実施方針も担当教員に一任された部分が多いことが予想されたので、今回の分析対象からは除外した。

2. 設問（量的項目）への回答の集計結果

回答率が50%以上であり、かつ回答者数が10名以上であった授業（のべ1210科目）について、一般講義、演習・ゼミ（卒業論文を含む）、実習・実験、リエゾンゼミⅠ、語学系、スポーツ系、禅、の7カテゴリーに分けて評価の集計を行った。

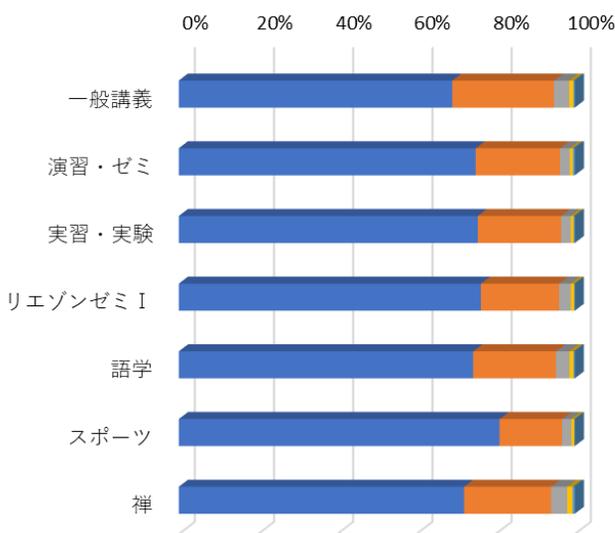
設問① 授業の計画や進め方について初回あるいは適切な時期に十分な説明がありましたか。



	まったく説明がなかった	少し説明があった	どちらとも言えない	ある程度の説明はあった	十分な説明があった
一般講義	102	318	1170	8051	22081
演習・ゼミ	9	12	39	357	1317
実習・実験	5	20	55	502	1861
リエゾンゼミⅠ	2	17	56	427	1655
語学	11	35	119	778	2693
スポーツ	2	11	39	272	1508
禅	9	18	65	353	1202

■ 十分な説明があった ■ ある程度の説明はあった
 ■ どちらとも言えない ■ 少し説明があった
 ■ まったく説明がなかった

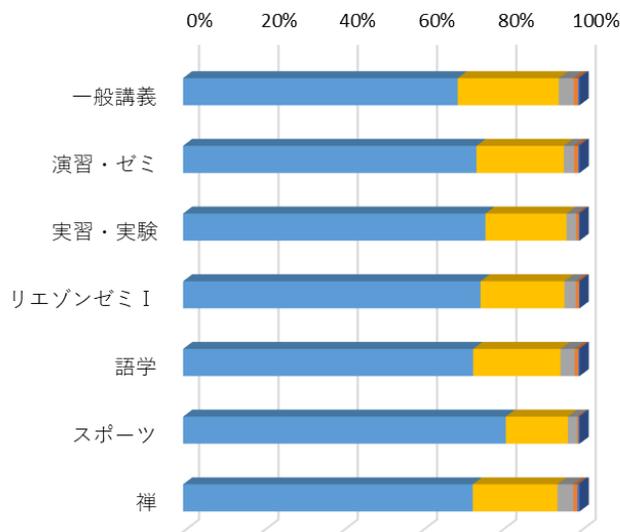
設問② 学習の到達目標とその評価方法について十分な説明がありましたか。



	まったく説明がなかった	少し説明があった	どちらとも言えない	ある程度の説明はあった	十分な説明があった
一般講義	102	332	1221	8151	21916
演習・ゼミ	8	13	43	370	1300
実習・実験	6	18	60	514	1845
リエゾンゼミⅠ	3	18	64	426	1646
語学	11	37	124	761	2703
スポーツ	2	13	43	290	1484
禅	9	22	67	362	1187

■ 十分な説明があった ■ ある程度の説明はあった
 ■ どちらとも言えない ■ 少し説明があった
 ■ まったく説明がなかった

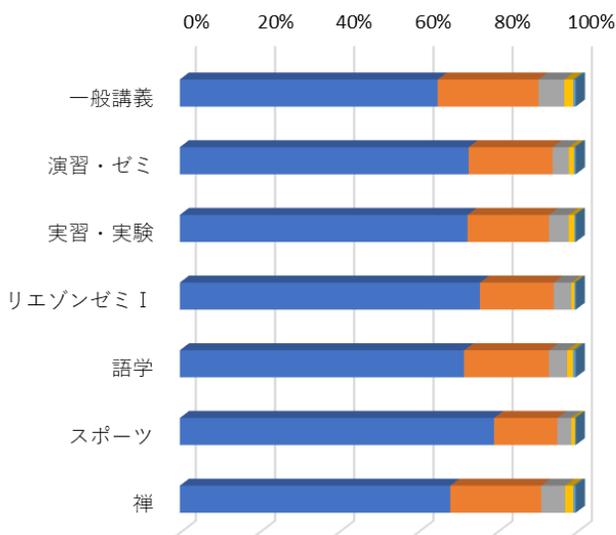
設問③ 授業のテーマや特徴、受講時の留意点等について十分な説明がありましたか。



	まったく説明がなかった	少し説明があった	どちらとも言えない	ある程度の説明はあった	十分な説明があった
一般講義	119	346	1208	8074	21975
演習・ゼミ	6	18	45	382	1283
実習・実験	5	17	59	499	1863
リエゾンゼミⅠ	3	18	61	457	1618
語学	10	36	129	801	2660
スポーツ	5	7	42	287	1491
禅	9	17	66	352	1203

■ 十分な説明があった ■ ある程度の説明はあった
 ■ どちらとも言えない ■ 少し説明があった
 ■ まったく説明がなかった

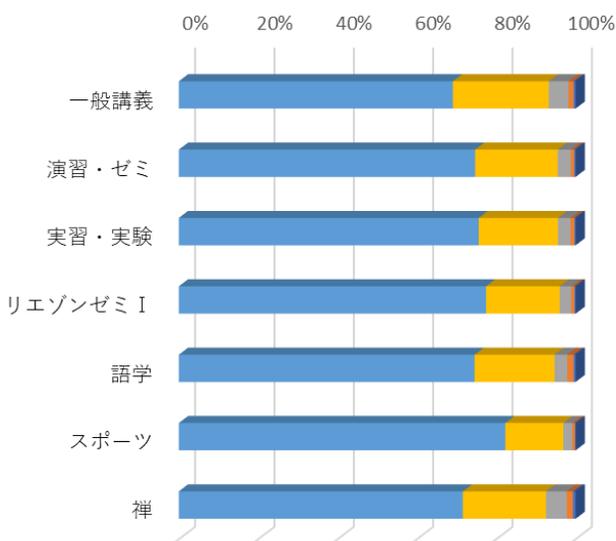
設問④ 教員の話し方、教材や資料の提示（板書を含む）、ディスカッションや実験・実技指導などは適切でしたか。



	まったく適切ではなかった	あまり適切ではなかった	どちらとも言えない	ある程度適切だった	十分適切だった
一般講義	193	725	2060	8085	20659
演習・ゼミ	7	23	71	368	1265
実習・実験	8	35	122	503	1775
リエゾンゼミⅠ	7	17	96	402	1635
語学	25	53	168	780	2610
スポーツ	3	17	65	293	1454
禅	10	34	99	379	1125

- 十分適切だった
- どちらとも言えない
- まったく適切ではなかった
- ある程度適切だった
- あまり適切ではなかった

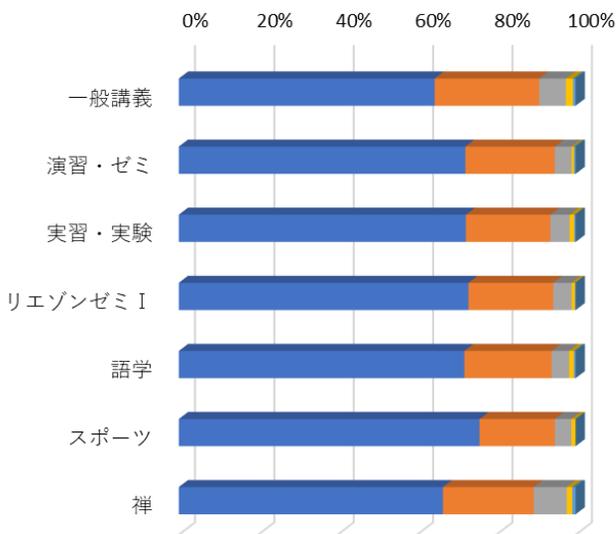
設問⑤ 教員は、学生が学習に集中できる授業環境になるように配慮（課題提出期限等の適切な設定、感染予防対策など）していましたか。



	まったく配慮していなかった	あまり配慮していなかった	どちらとも言えない	ある程度配慮していた	十分に配慮していた
一般講義	156	410	1582	7657	21917
演習・ゼミ	6	15	57	361	1295
実習・実験	7	24	78	488	1846
リエゾンゼミⅠ	6	18	62	401	1670
語学	17	60	116	733	2710
スポーツ	3	13	41	268	1507
禅	11	26	86	345	1179

- 十分に配慮していた
- どちらとも言えない
- まったく配慮していなかった
- ある程度配慮していた
- あまり配慮していなかった

設問⑥ 授業構成（ワークや振り返りや質問の時間など）について工夫がなされていましたか。



	まったく工夫されていなかった	あまり工夫されていなかった	どちらとも言えない	ある程度工夫されていた	十分に工夫されていた
一般講義	206	577	2128	8367	20444
演習・ゼミ	7	11	73	391	1252
実習・実験	9	28	119	520	1767
リエゾンゼミⅠ	4	18	100	461	1574
語学	16	44	160	800	2616
スポーツ	1	19	76	348	1388
禅	14	23	137	377	1096

- 十分に工夫されていた
- どちらとも言えない
- まったく工夫されていなかった
- ある程度工夫されていた
- あまり工夫されていなかった

いずれの設問においても、またいずれの授業カテゴリーについても「十分」と「ある程度」で示されたポジティブ回答を合わせると90%を超えており、おおむね高評価であったとみなすことが可能である。

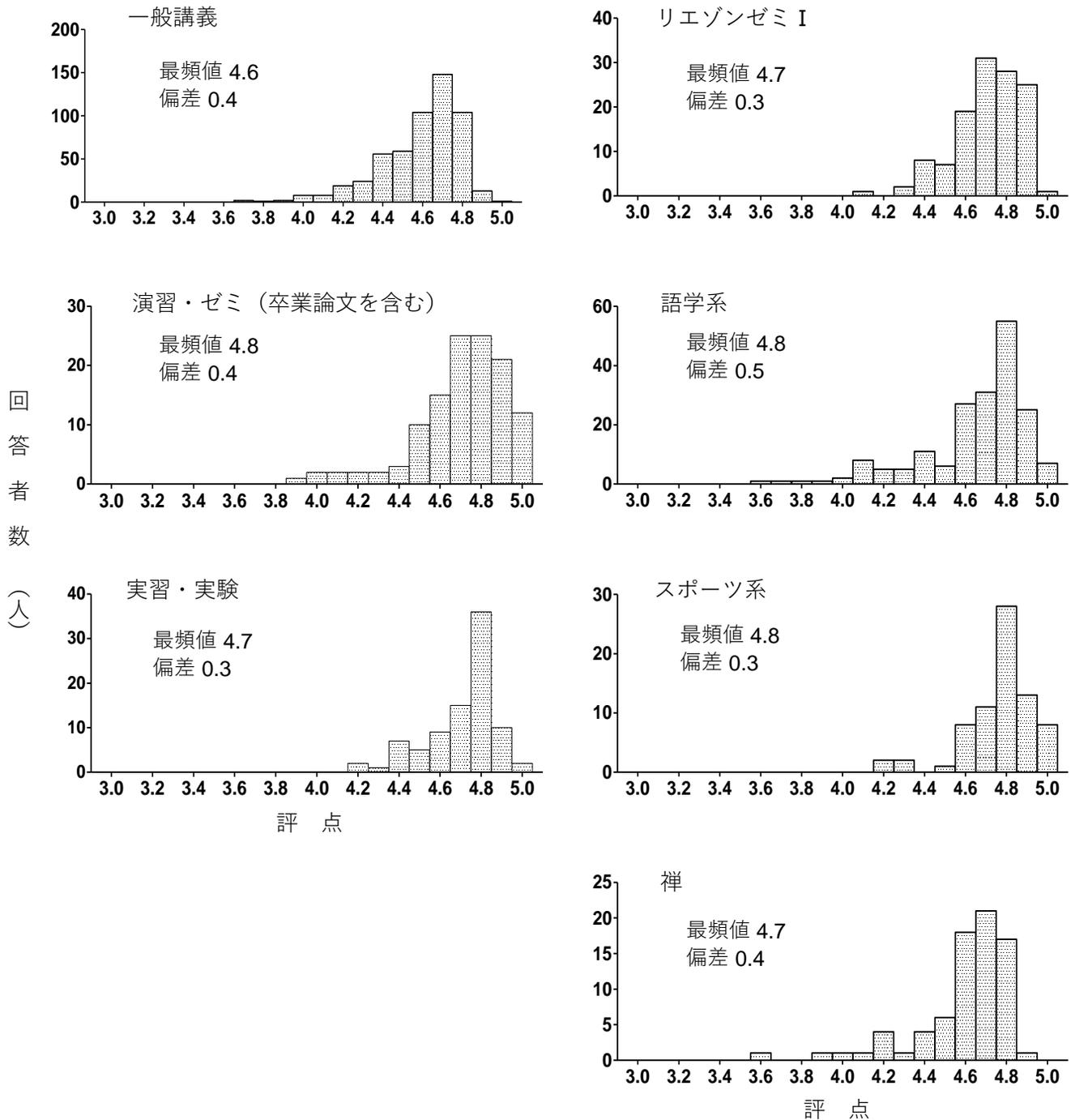
一方、語感として「十分」と「ある程度」とは相当の程度の開きがあると思われる。特に「一般講義」においては、6割強の学生しか満足はしておらず、3-4割の学生は何らかの不満を抱えているとも読める。学修者は、いずれの項目においても「十分」であることを求めていることを考慮すると、今後留意すべきポイントと考えられる。

「禅」も同様に「十分」が低めの結果となった。これは、「禅」にとっては“聞き方”が適切でない設問が含まれているためと推察されたので、以降は集計結果のみ示し、分析対象からは除外した。

3. 授業カテゴリー別の評価点の分布

回答率が50%以上であり、かつ回答者数が10名以上であった授業（のべ1210科目）について、前述の各設問についての評価を、それぞれ最もポジティブな選択肢の回答を5点、最もネガティブな選択肢の回答を1点として5段階に数値化し、評点の分布を示したものが下のグラフである。

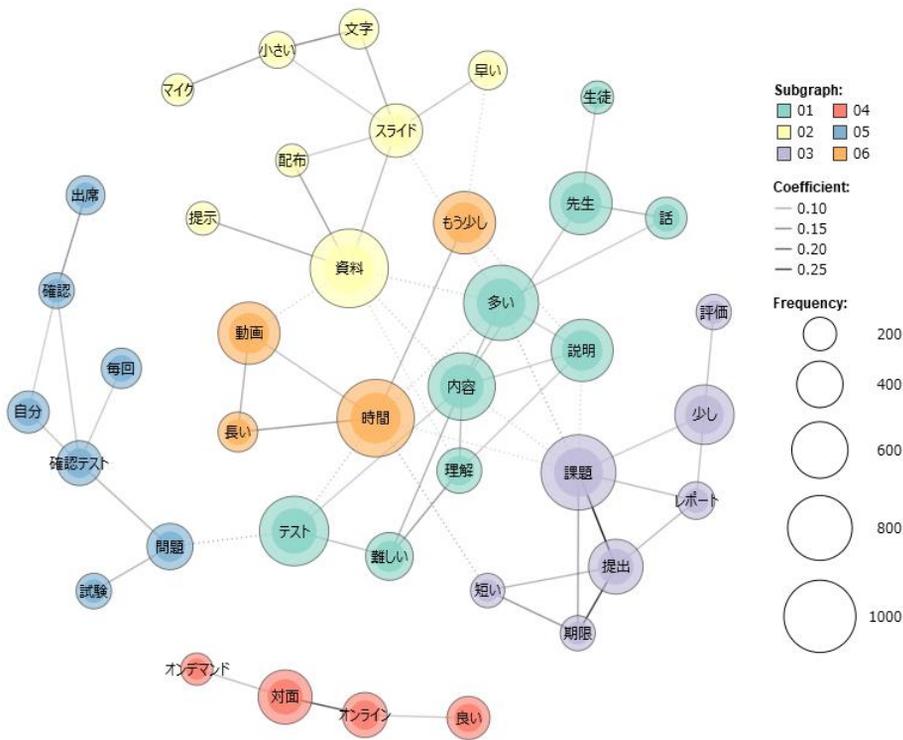
平均評点の分布は授業カテゴリー別に示したが、どのカテゴリーでも最頻値は4.5以上であった。



(2) よかったとは感じられなかった点

計6種の観点が存在し、それぞれ以下のような点が低評価に結びついた要因と考えられる。

- ①教員の**口頭での説明**が多く、内容の理解が難しかったこと
- ②資料の提示・配布方法を含め、**教員の授業パフォーマンス**が良くなかったこと
- ③**課題（レポート）の提出期限**が不適切であったこと
- ④**オンライン/対面のバランス**が不適切であったこと
- ⑤テスト等による**自身の理解の確認**が不十分だったこと
- ⑥**動画コンテンツ視聴に要する時間**が長かったこと



<共起ネットワーク>

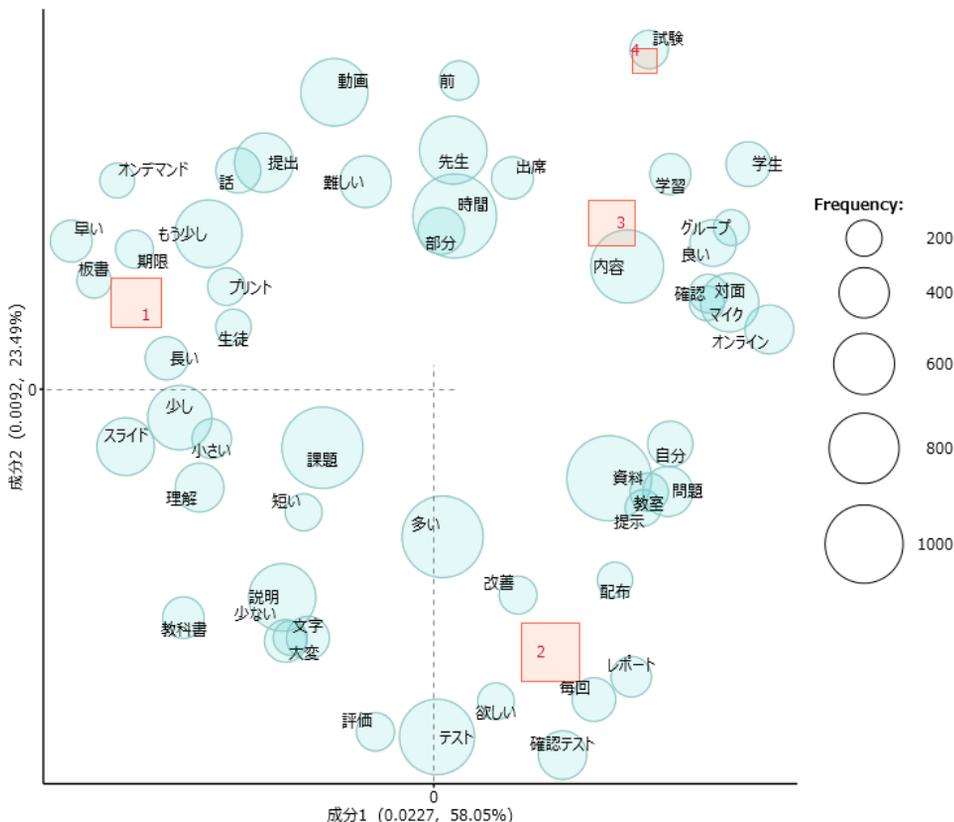
これらには前項で述べた観点と一致するものがあり、今後、クリアすべきポイントと考えられる。

右図は、前出のグラフと同様に、キーワードの出現頻度・互いのつながりと、回答者の学年との対応関係を示したグラフである。

前項と比較すると、キーワードは原点を中心として散らばっており、マイナス評価の要因と学年との相関は少ないと考えられる。

「動画コンテンツや授業補助資料のクオリティの高さ」、「教員による丁寧で分かりやすい説明」、「提出課題やテストなどを通じた学生自身の理解度が自覚できる工夫」、「オンラインを適切に取り入れた協同学修」など、前項で示唆された観点とほぼ一致している。

なお、こちらについても、所属学科の対応関係（相関）は見られなかった。



<対応分析>

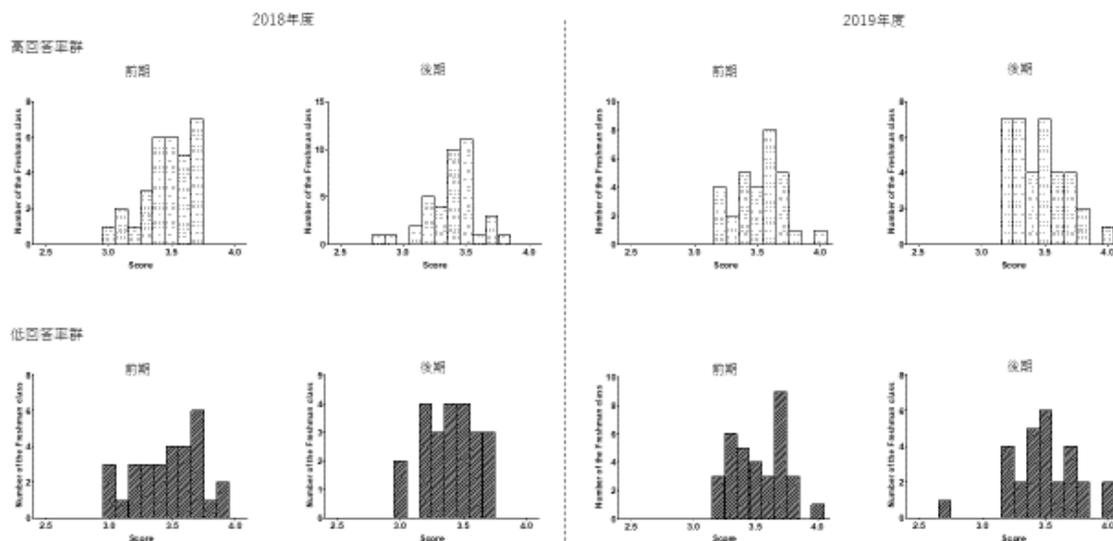
5. まとめ

1. 回答者数および回答率の条件を設けることによる評価バイアスについて

統計学的な分析を行う都合上、「回答率が50%以上であり、かつ回答者数が10名以上」であった授業を選んで評価を実施した。その結果、受講者数が10名未満の授業の場合、例えば全員が満点をつけるような授業であっても、全学的な評価対象からは外れてしまい、正しい傾向とは言えなくなる恐れがある。

しかしながら、緒言で述べたように、担当教員個人のポータルサイトでは、すべての授業について受講学生の回答を自由記載を含めて閲覧可能となるので、自らの授業改善に活かすことが可能であり、授業評価本来の役割は維持できていると考えられる。

また、2018年度と2019年度に、一般に回答率が高い1年生向け科目の授業評価結果における高回答率群（50%以上）と低回答率群（50%未満）を対象に、量的項目の評価傾向に差があるかどうか検討した結果、有意な差は見られなかった（下図参照）。



以上の理由から、「回答率が50%以上であり、かつ回答者数が10名以上」という条件は、全学的な傾向を評価するうえで大きなバイアスがかかる可能性は少なく、妥当なものと考えられる。

2. 今回の評価結果について

量的項目については、いずれの設問・授業カテゴリーについてもポジティブな回答が90%を占めていた。平均評点の分布においても最頻値は4.5以上であり、おおむね高評価であった。しかしながら、前述のように「十分」（5点）と「ある程度」（4点）の間には語感としてレベルの開きがあり、「ある程度」という選択肢には「期待ほどではなかった」旨の評価が含まれるとも思われる。特に、一般講義、演習・ゼミ、語学系では偏差が大きく、少数ではあるが評点が例外的に小さい科目が存在していた。

このような結果となった背景には、やむを得ない事情がある場合も考えられ、過去には、授業担当教員から「代理として突然当該授業を担当することになり、専門も異なるので困惑した」旨の苦情が寄せられたケースもあった。従って、これらの科目については、単年度のみの結果で判断せず、最大3年程度の猶予をもって改善の有無を見ていく必要があるだろう。そのうえで、自由記載等から「十分」とならなかった理由を探り、必要に応じて対策を講じるのが適切と考えられる。

自由記載の分析を通して、評価に結びついた観点は、次の5つにまとめられる。

- ①授業パフォーマンスの良さ（具体的事例の紹介、オンライン/対面のバランス、丁寧な説明、など）
- ②補助教材の適切な活用（動画コンテンツ、資料の提示、など）
- ③負担のない課題（レポート）提示・提出のサイクル
- ④資格試験対策の充実
- ⑤学生自身の主体的な学習機会の確保（グループ学習の実施、自分で理解の程度が確認できるしくみ、など）

これらのうち、①～③は従来から指摘されてきた内容でもあり、教育的配慮ゆえに学生には不評なものも含まれることが予想される。しかしながら、受講生にとって過剰なストレスとならないよう、十分に留意する必要がある。④と⑤は近年の傾向で、特に⑤に相当する内容は、今回初めて抽出された。具体的な項目の中には「授業受講後の確認テストの実施」など、その量によっては賛否が分かれると思われる内容も含まれるので、個々の記載を注意深く検討する必要がある。近年の流れとして、学修者本位の教育システムを構築していくにあたって、学生からのこのような観点の評価が得られたのは、望ましい結果と言える。今後、具体的な方策を積極的に検討していく必要があるだろう。

1. 基本属性

1) 所属学部学科・研究科専攻分野

所属学科等について、必ずひとつチェックしてください。【必須】

- ・社会福祉学科（1年のみ）
- ・社会福祉学科社会福祉コース
- ・社会福祉学科総合福祉コース
- ・福祉心理学科
- ・福祉行政学科
- ・産業福祉マネジメント学科
- ・情報福祉マネジメント学科
- ・教育学科初等教育専攻幼保コース
- ・教育学科初等教育専攻小幼コース
- ・教育学科初等教育専攻小特コース
- ・教育学科初等教育専攻コース未決定（1年のみ）
- ・教育学科中等教育専攻
- ・保健看護学科
- ・リハビリテーション学科理学療法学専攻
- ・リハビリテーション学科作業療法学専攻
- ・医療経営管理学科
- ・その他の学部授業の受講学生
- ・総合福祉学研究科博士社会福祉学専攻
- ・総合福祉学研究科修士社会福祉学専攻
- ・総合福祉学研究科修士福祉心理学専攻福祉心理学分野
- ・総合福祉学研究科修士福祉心理学専攻臨床心理学分野
- ・教育学研究科修士教育学専攻
- ・その他の大学院授業の受講学生

2) 所属学年

所属学年について、必ずひとつチェックしてください。【必須】

- ・学部1年
- ・学部2年
- ・学部3年
- ・学部4年
- ・修士1年
- ・修士2年
- ・博士1年
- ・博士2年
- ・博士3年
- ・その他

2. 前期授業について

前期は、「対面式授業」の授業に加えて、オンライン授業も含めて、おおむね次のような4つの形態で行われました。

- 1) 対面式授業
- 2) 資料提示型（UNIVERSAL PASSPORT等への資料等の掲載）
- 3) 動画オンデマンド配信型（UNIVERSAL PASSPORT等への資料等の掲載、かつ、音声あるいは動画による説明）
- 4) 上記1)～3)を組み合わせた授業

この授業は、上の1)から4)のどれにあたるのかを思い浮かべながら、以下の設問にお答えください。

(1)この授業について、次の①から⑥について、ご自身の考えに一番近い選択肢をひとつ選んでチェックをしてください。【すべて必須】

①授業の計画や進め方について初回あるいは適切な時期に十分な説明がありましたか。【必須】

5. 十分な説明があった
4. ある程度の説明はあった
3. どちらとも言えない
2. 少し説明があった
1. まったく説明がなかった

②学習の到達目標とその評価方法について十分な説明がありましたか。【必須】

5. 十分な説明があった
4. ある程度の説明はあった
3. どちらとも言えない
2. 少し説明があった
1. まったく説明がなかった

③授業のテーマや特徴、受講時の留意点等について十分な説明がありましたか。【必須】

5. 十分な説明があった
4. ある程度の説明はあった
3. どちらとも言えない
2. 少し説明があった
1. まったく説明がなかった

④教員の話し方、教材や資料の提示（板書を含む）、ディスカッションや実験・実技指導などは適切でしたか。【必須】

5. 十分適切だった
4. ある程度適切だった
3. どちらとも言えない
2. あまり適切ではなかった
1. まったく適切ではなかった

⑤教員は、学生が学習に集中できる授業環境になるように配慮（課題提出期限等の適切な設定、感染予防対策など）していましたか。【必須】

5. 十分に配慮していた
4. ある程度配慮していた
3. どちらとも言えない
2. あまり配慮していなかった
1. まったく配慮していなかった

⑥授業構成（ワークや振り返りや質問の時間など）について工夫がなされていましたか。【必須】

5. 十分に工夫されていた
4. ある程度工夫されていた
3. どちらとも言えない
2. あまり工夫されていなかった
1. まったく工夫されていなかった

(2)この授業で、ご自身の学習にとって「効果的だった」「積極的に取り組むようになれた」「これからも続けてほしい」等、「よかったと感じられた点」について、自由にお書きください。授業の方法、進め方、内容、評価などいずれでも構いません。複数ある方は箇条書きでも結構です。「よかったと感じられた点」がない場合は、「なし」と書いてください。（300字以内）【必須ではない】

－「よかったと感じられた点」－（自由記述）

(3)この授業で、ご自身の学習にとって「あまり効果的ではなかった」「積極的に取り組む気持ちにはつながらなかった」「これからは改善した方がいい」等、「よかったとは感じられなかった点」があれば、なるべく具体的に教えてください。複数ある方は箇条書きでも結構です。問題状況を体験しなかった方は「なし」と書いてください。（300字以内）【必須ではない】

－「よかったとは感じられなかった点」－（自由記述）

以上でアンケートは終わりです。お疲れ様でした。